

氏名（本籍）	服部 慶子（神奈川県）
学位の種類	博士（音楽）
学位記番号	甲第7号
学位授与年月日	平成26年3月19日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項
学位論文題目	『チェレプニン・コレクション』所収邦人ピアノ作品研究と資料批判
学位論文等審査委員	
（総合審査）	委員長 教授 横井 雅子
	教授 今井 顕
	教授 久保田 慶一
	教授 安井 耕一
	教授 吉成 順
	准教授 江崎 公子
（演奏審査）	委員長 教授 横井 雅子
	教授 今井 顕
	教授 渋谷 淑子
	教授 安井 耕一
	野平 一郎（東京芸術大学音楽学部教授）
（論文審査）	委員長 教授 横井 雅子
	教授 久保田 慶一
	教授 吉成 順
	准教授 江崎 公子
	津上 智実（神戸女学院大学 音楽学部音楽学科教授）

審査結果の要旨

審査所見

学位審査委員会は、申請者 服部慶子（博士後期課程器楽研究領域）の学位審査修了リサイタルならびに学位申請論文に関して厳正な審査を行った。以下に、1. 演奏審査、2. 論文審査、3. 総合審査に関する所見を記す。

1. 演奏審査

学位審査修了リサイタルは博士論文のテーマである「『チェレプニン・コレクション』所収邦人ピアノ作品研究と資料批判」と関連づけられ、チェレプニンの主要なピアノ作品《五つの演奏会用練習曲 作品52》と《チェレプニン・コレクション》所収のピアノ作品群から三人の作曲家の作品、箕作秋吉《夜の狂想曲》、江文也《スケッチ五曲 作品4》、伊福部昭《ピアノ組曲》が、申請者によって演奏された。審査に際しては コンサート・ピアニストとしての技量のみならず、プログラム構成、時代様式の実現、個々の作品の特徴が把握されているかという側面が観点とされた。全体として、安定したテクニックによって緻密な構成力、表現力が示され、チェレプニンによって発見され、紹介された作曲家たちの作品の現代における再評価を促すのに十分な内容が示された。これらの作品をリサイタル・プログラムとして取り上げるのに十分な魅

力があることをその演奏力によって示したが、それを支えているのは作品への深い共感と研究であり、そのことにより説得力を増したと感じ取ることができた。

ただし、作曲者の違い、曲の求める内容によって音色の使い分けやリズムの変化の面白さの強調、単調なリズム割りの部分での躍動感といった演奏法の幅という点においてはさらなる改善の必要性が示された。また、当時の日本人が持っていた音楽性を、今日の視点からどう捉えたかという点が演奏を通して見えてくることも望まれた。

チェレプニン本人の作品や、日本人の作品のなかなか光の当たらない分野に挑戦して一定の成果を挙げており、こうした面も勘案した結果、演奏審査を合格とすることで審査員の見解は一致した。

2. 論文審査

本論文は、従来取り上げられることの少なかった《チェレプニン・コレクション》所収邦人ピアノ作品群の再評価に取り組んだもので、演奏頻度も一般的な知名度も低い、1930年代の作曲家たちの作品を収めた楽譜集として注目したものである。演奏者としての立場からこれらに着目し、楽譜資料としての実体を実証的に検討し、資料批判を行って演奏と研究の基礎資料として提供することを目的としている。近年になってようやくその意義が再評価されつつあるこれら楽曲の楽譜の比較や詳細な校訂記録を根気強く行ったもので、レパートリー研究として高く評価できるものである。

ただし先行研究の読み込みが不十分であるために誤用している箇所があること、重要な先行研究の見落としがあることが指摘され、公表までに見直して適切に修正することが求められた。また、せっかく行った校訂にミスがあり、全体の信用を損ないかねない点が惜しまれた。これらの具体的な課題は残されたものの、演奏すべき対象としての評価が必ずしも高くなかった楽曲を奏者の立場から取り上げるために楽譜に見られる問題の所在を明らかにし、可能な限り作曲者の意図を反映させた楽譜に近づけるための研究は、今後大いに発展が期待できるものである。以上を勘案し、器楽研究領域の学位論文として基準を満たすものと判定した。

3. 総合審査

申請者が博士研究に選んだテーマは、日本の洋楽史において顧みられることの少なかった時期に焦点を当てただけでなく、東洋の新たな可能性に着目したロシア人が日本で展開した独創的な活動によって実現した内外の作曲家の作品を演奏者の立場から捉え、研究と演奏実践が有機的に結び付けられたものである。とりわけ学位審査修了リサイタルにおいては、丹念な資料研究を通して得られた作品への深い共感が音として結実していた。博士後期課程における本研究を足がかりに、今後はいっそう完成度の高い演奏と研究に向けて精進を重ねてほしい。このたびの成果に対する総合的評価のもと、「博士（音楽）」Doctor of Musical Artsの学位を授与するに相応しいものと判定する。